

## 平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 名古屋国際中学校・高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☒ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒466-0841  
愛知県名古屋市昭和区広路本町 1-16

E-mail junior@nihs.ed.jp

Website http://www.nihs.ed.jp

児童生徒数 男子 418 名 女子 396 名 合計 814 名  
 児童・生徒の年齢 13 歳～18 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☒ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☒ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☒ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

「サステナビリティ（持続可能性）」をキーワードとして設定し、「多文化共生と減災」「経済活動と貧困」「社会生活と循環」を探究学習テーマとして、学校設定科目・教科、国際理解研修、課外活動において ESD 学習を推進している。

#### 1, 探究学習テーマの設定

##### ・ 多文化共生と減災（社会文化的視点）

外国籍の生徒・教員が在籍する本校の特性と、東南海地震の被害が想定される地域性を踏まえ、国籍・文化的背景を障壁としない減災対策を考察する。

##### ・ 経済活動と貧困（経済的視点）

国内外における貧困問題の実情と解決策を社会起業家的な観点から考察し、持続可能な社会と経済活動のバランスを探究する。

##### ・ 社会生活と循環（環境的視点）

日常生活を営む上での環境負荷を意識し、自然環境との調和のもとで人間の活動を成立させていくための考え方や手法を考察する。

#### 2, 学校設定科目『SIA 特論』の設置

今年度より、高校 2・3 年生の学校設定教科として『サステナビリティ』・学校設定科目として『SIA 特論』を設置し、ESD 探究学習テーマの 3 つを授業内で深く学習する機会を創設した。（SIA とは、Sustainability in Action !の略）

##### ・ 学校設定教科『サステナビリティ』

社会文化的視点・経済的視点・環境的視点から、一筋縄では解決に至らない世界規模の社会課題に対して理解を深め、高校生の豊かな感性で、課題解決への道筋を立て実践する姿勢を育てる。

##### ・ 学校設定科目『SIA 特論』

「多文化共生と減災」「経済活動と貧困」「社会生活と循環」のテーマに対して理解を深めさせ、これに関わる社会課題と自己の関わりを意識できるようにするとともに、課題解決に向けて必要な考え方を育む。

（授業で取り扱ったトピック例）

災害時の避難所アクティビティ、LGBT の理解、豊かさとは何か 等

### (授業展開と評価方法)

アクティブ・ラーニング形式の授業展開を心がけており、プレゼンテーションやポスターセッションでは評価ルーブリックを作成して評価している。また、学外との関わりを意識した構成をとっており、卒業生の講演や外部ワークショップへの参加も実施している。



授業内ポスターセッションの様子



卒業生によるキャリアガイダンス

### 3,国際理解研修の実施

ESD 探究学習テーマについて、研修先の実情を理解し、日本と比較する活動を行っている。

#### ・多文化共生と減災：Sydney コース（6 週間プログラム）

(特徴) Macquarie University でのアクティブ・ラーニング（前半 3 週）

- ・多文化主義、グローバリゼーション、アボリジニ文化を学習
- ・企業訪問（JETRO Sydney）の実施
- ・成果としての、英語によるペア・プレゼンテーション

7 つの現地校に分かれた高校生体験（後半 3 週）



アボリジニ講義の様子



最終プレゼンを iPad で日本に配信

## ・経済活動と貧困：Manila コース（2 週間プログラム）

- （特徴） 認定 NPO 法人アイキャンと共同で研修行程を編成  
都市部の現地校（公私立）で日本との違いを経験  
路上・ゴミ処分場で生活する子どもたちとの交流・宿泊行事  
JICA・企業・社会起業家による社会問題への解決策に関する学習  
グローバルキャリア教育



ゴミ処分場でのフィールドワーク



日本航空での職業体験

## ・社会生活と循環：Singapore・Malaysia コース（5 日間プログラム）

- （特徴） シンガポールにおける「水資源」の課題について学習
- ・マレーシアからの水輸入
  - ・ため池（雨水の活用）
  - ・日本の技術を駆使した NEWater（再生水）施設の訪問
  - ・淡水化技術の視察（マリーナベイ）

マレーシアでのホームビジットを含む異文化体験



Newater センターの訪問



マレーシアの村での文化交流

生徒アンケートの実施

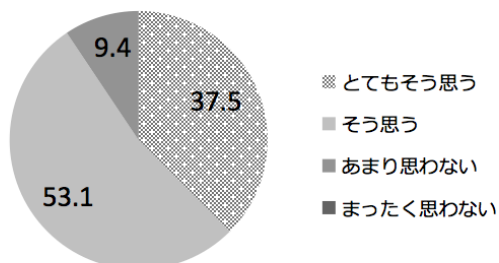
国際理解研修に参加した生徒を対象にアンケートを実施。以下の表は、Sydney



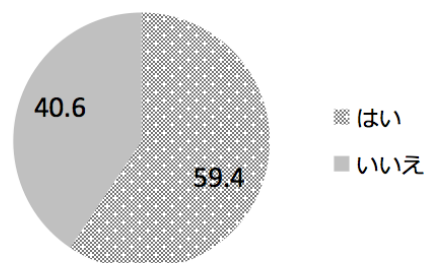
コースで実施したアンケートの設問を抜粋してグラフにしたもの。

## 国際理解研修の実施（生徒アンケート）

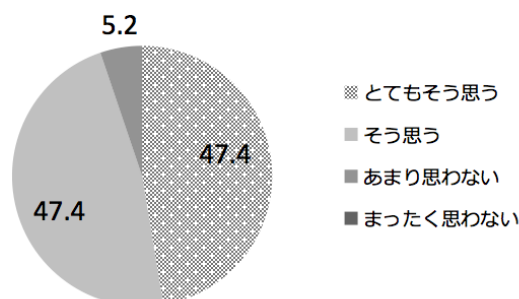
研修を通じて、他者と議論することに以前よりも積極的になったと思いますか。



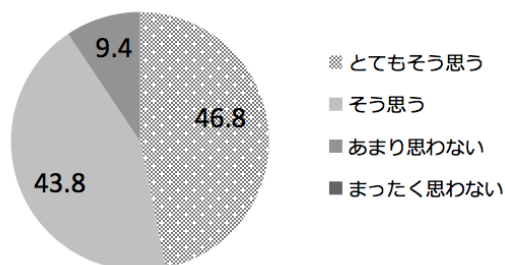
6週間の現地生活において、何か困難に直面しましたか。



あなたは最終的に、その困難を乗り越えることができたと思いますか。



研修に行く前よりも、将来の進路において海外で活躍したいと思うようになりましたか。



### 4,地域と連携した課外活動の実施（Kokusai Friend Coffee の製作）

- ・愛知県内のコーヒー店（Aoyagi Coffee Factory）と連携
- ・概要：中高生がフェアトレード活動を行い、商品パッケージを活用し、地域で社会的活動に尽力する人物・団体をPRする。
- ・2016年度は、熊本復興支援のPRおよび株式会社ウェイストボックスと連携し、カーボンオフセット商品の企画・販売を行った。



文化祭での販売学習



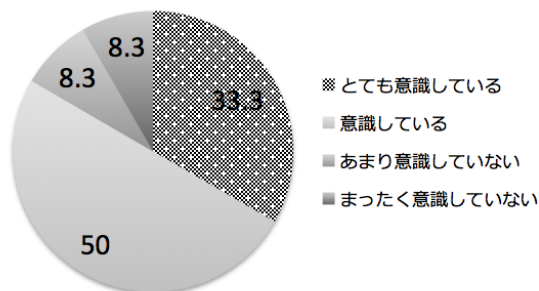
コーヒー・紅茶パッケージ

## 生徒アンケートの実施

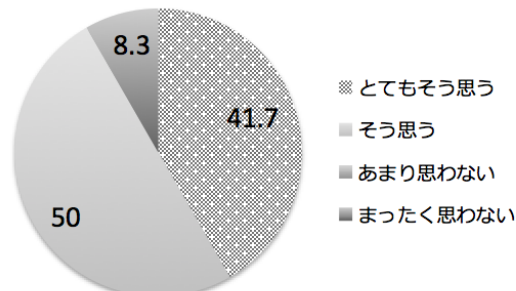
Kokusai Friend Coffee 活動に主体的に取り組んでいる生徒を対象にアンケートを実施。地域との関わりなど、本取組みで弱い項目は次年度の課題として改善を図る予定。

### 地域と連携した課外活動の実施（生徒アンケート）

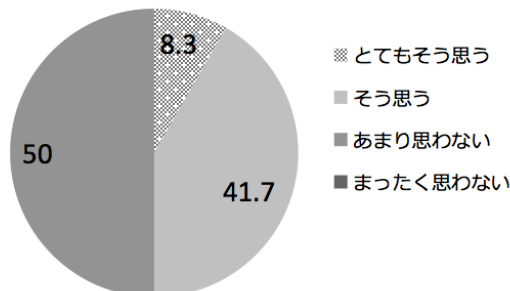
あなたはKFCに参加してから、街中でFT商品などを意識するようになりましたか



KFCを通じ、将来何か「社会課題」を解決できる人材になりたいと思いますか



KFCに参加している生徒は、参加していない生徒よりも「地域」との繋がりが深いと思いますか



社会課題を解決できる人材になるために、必要だと思う能力は何ですか（記述式）

- ・物事を客観的に見て、分析したり判断したりする能力
- ・視野を広げ、人をまとめる能力
- ・どんな問題に直面したとしても1つの視点からでなく、幅広い視点で原因を考え、解決に近づけることができる能力
- ・語学力や社会的な考え方、知識

### 【今年度活動の成果】

- ・サステナブルスクール採択校及び、気候変動に関する WIA（機関包括型アプローチ）実施校となる。
- ・国際教育プロジェクト合同報告会の開催（2017 年 3 月）
- ・グローバル語り部の実施（文部科学省グローバル人材育成基盤形成事業）※1
- ・第 10 回全日本高等模擬国連大会出場（主催：Global Classroom）
- ・第 1 回 SGH 甲子園本選出場（2017 年 3 月）  
（課題研究プレゼンテーション部門・ポスターセッション部門）
- ・愛知県ユネスコスクール交流会参加（主催：愛知県教育委員会）※2
- ・第 3 回日本 ESD ユース・コンファレンス（教員 1 名参加、主催：五井平和財団）
- ・社会人 ESD ユースレポーター（教員 1 名選出、主催：ESD 学習支援センター）

